ホメオパシー医学協会

# 第14回ＪＰＨＭＡコングレス

## 愛とサイエンスの融合（ホメオパシー）

### 明治神宮会館で開催

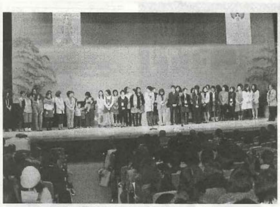
### 内外の来賓が熱く語たる

日本ホメオパシー医学協会の第14回コングレスは12月7日、8日の両日、東京・渋谷区の明治神宮会館において「愛とサイエンスの融合ホメオパシー」をテーマに開催されたが、初日と2日目の内容を紹介する。

由井会長

ブラチョ博士

マンチャンダ博士


ＪＰＨＭＡ認定証授与式。今回も数多くのホメオパスが誕生

第14回コングレスは7日午前9時にＪＰＨＭＡ秦昭二理事による開会宣言で始まった。秦理事はインドでの国際カンファレンスが大成功したことを紹介し「多くの日本人の方々が、ホメオパシーの恩恵を受けられますように、そして、今回のコングレスが成功するようにお祈りいたします」と語った。

冒頭、由井寅子大会会長は「今回のコングレスを明治神宮会館で開催できたことを本当に嬉しく思います」と前置きし、キューバのブラチョ博士、インドのマンチャンダ博士が日本に駆けつけてくれたことに感謝の言葉を述べた。そして由井会長は「ホメオパシーを認めたガンジーさんは素晴らしい。日本も同じようになればと願っています。18年前の日本には、ホメオパスが私一人しかいませんでした。今では600名のホメオパスが育っています。私はもう一人ではありません。みんなと一緒にホメオパシーを広げていく。ハーネマンに助けられた命ですから、ホメオパシーのために私の人生を捧げて頑張ってきました。インドやキューバなど、他国のホメオパスが助けてくれなければここまで頑張れませんでした。日本は、他国に比べれば、ホメオパシーの歴史はまだまだ浅いです。しかし、薬害に苦しむ多くの日本人を診てきたことで、日本でのホメオパシーの研究が急速に発展を遂げました。私が難病患者を目の当たりにするたび、常にハーネマンに問いかけてきました。『症状があれば病気は治せる』とハーネマンは書いています。難しい病気でも症状がある限り、私は技術を磨き、苦しむ人々を治していきたい。そして、ホメオパシーで身体・心・魂を治し、一人一人一生懸命、ご自分の人生を生きられるように願います。皆さん、このコングレスを一緒にエンジョイしていきましょう」と挨拶した。

川田博士

酒井ホメオパス

森山ホメオパス

松尾ホメオパス

米丸氏

早速、ＪＰＨＭＡ認定ホメオパスによる治癒症例発表が行われた。

①酒井由紀子氏「小児の脳腫瘍の治療においてホメオパシーでサポートしたケース」②森山知加子氏「攻撃行動と痙攣発作がホメオパシーによって改善した犬のケース」③松尾敬子氏「20年間続いたリウマチが改善したケース」。

そして農業現場からの報告を米丸輝久氏が「自家採種、種から自然にこだわり、農薬、化学肥料を使わず、ハーブとレメディーを使った日本豊受自然農洞爺自然農場の実践」と題して「洞爺の農場では、自家採取の種を使って自然農法で作物を育てています。自家採取の種は、植物自身の力で、その土地に馴染んでいきます。自家採取による農業は本来の自然な姿ですが、そのような農業をやられているのは数少ないのが現状です。自立した種を存続させ、自然な農業のために、今後も、自家採取を続けていくつもりです」と力強い言葉で締めくくった。

ゲスト発表は水の研究で有名な川田研究所の川田薫理学博士が「生命誕生実験から見えてくる科学」と題して世界で初めて成功させた「無機物からの生命誕生実験」を解説。わずか100万分の1のミネラルを添加することで、水の粒子が構造化することを、これも世界で初めて川田薫氏のグループが、その様子を電子顕微鏡写真に撮影した写真も公開した。その時の実験映像がスクリーンで公開され、無機物がある条件下で生命を獲得する、その映像は大変衝撃的でした。さらに生命を獲得することはエネルギーを獲得すること、エネルギーを得ること、エネルギーを得ることは質量の変化を伴うという仮説の下、ラットの実験を行い、今度は多細胞生物でエネルギーかが外れる瞬間を測定する実験を行い、超精密な秤により、その変化の測定に成功された。これは、従来の唯物史観の科学を超え、意識の生命活動に及ぼす影響を含め新しい科学が発展する可能性があるとした。

ホメオパシーの高希釈溶液の作用メカニズム解明にもつながる水の研究。川田博士は次なる実験を次回に発表したいと語たり会場から大きな拍手が湧きあがった。

壇上ではＪＰＨＭＡ認定証授与式が行われ、午前の部を終えた。

キューバ共和国フィンレイ研究所「ホメオパシーと生物療法プロジェクト」代表のグスタボ・ブラチョ博士は「ホメオパシーの支持：一つのモデルとしてのホメオパシー予防法」と題してホメオパシーのレメディーを使った、キューバでの感染症予防の事例について発表した。「毎年、世界各地で発生している感染症予防のために、莫大な費用が費やされている。しかし、感染症による被害が深刻で、対策をもっとも必要とする発展途上国では、あまり費用をかけられない。そのため、フィンレイ研究所は、ホメオパシーのレメディーを使った感染症予防の研究を開始。レメディーは、様々な効果やメリットがありながら、ワクチンと違って、生産方法は簡単で、費用があまりかかりません。A型肝炎、デング熱、レプトスピラ症のいずれでも、レメディーを使うと、症状が悪化せず、回復が早くなり、入院期間も減少。発症率自体も減少するため、ホメオパシーによって、感染症を予防・治療できることがわかりました。これらの結果が、具体的な数値によって示された。キューバでは、2007年11月、大洪水によって230万人が被災。

被災者の衛生環境の悪化から、レプトスピラ症と呼ばれる感染症が蔓延する恐れがありました。そこで、フィンレン研究所は、レプトスピラ症予防のため、キューバ東部の3か所で、ホメオパシーのレメディーを集団投与。劇的な罹患率減少および入院患者の死亡率減少という成果をあげました。この事例は、予防接種という方法によらずとも、ホメオパシーを使った感染症予防が有効であることを実証するものです。『キューバの英雄ホセ・マルティは、「真の医学とは治癒するものではなく予防するもの」だと言いました。現在の世界には、ホメオパシーが必要です」との言葉に会場から大きな拍手が湧きあがった。

海外ゲストの2人目は、インドのホメオパスであり、政府のホメオパシー中央研究評議会（ＣＣＲＨ）長官のＲ・Ｋ・マンチャンダ氏。「ホメオパシー界におけるインドの戦略的立場&インドと日本の協力」と題してインドでのホメオパシー使用・研究および、国家的取り組みの現状について発表した。

「現在、ホメオパシーは、80か国以上で使われ、欧州人の4人中3人がホメオパシーを知っており、そのうち29%が健康管理に使っています。世界的に、ホメオパシーの使用者数は、なおも増加傾向にあります。インドでは、西洋現代医学、アーユルヴェーダ医学とともに、ホメオパシーは国の第一医学と位置付けられています。インドの人口の48%がホメオパシーを利用し、30万人以上のホメオパスが活躍するホメオパシー大国です。インドで行われた調査によると、現在62%のホメオパシーユーザーが日常の健康の問題について現代医学を一度も試したことがない。そして、82%が緊急でない限り、現代医学治療に切り替えるつもりがないということです。インドで、ここまでホメオパシーが繁栄している理由として、レメディーのような『物質的でない、エネルギー的存在』が、インドの伝統的な信仰や価値観にうまくマッチしていたからだと考えられています。また、現代医療の薬品に比べてコストが5分の1しかかからないこともあります」と述べ、最後にマンチャンダ氏は、「ホメオパシーの分野で日本とインドが協力できることを嬉しく思います。日本との関係を今後も深めていけることを期待しています」との言葉で締めくくった。

初日最後に由井寅子会長は「すべてのものを自然に戻すホメオパシー〜自然型農業の実践と医原病のケース〜」と題して講演した。由井会長は遺伝子組み換え作物など不自然な食物が増えている昨今、「日本と日本人を復興するカギは自然農にある」と強調。「自然農は8年半前から徐々に取り組んできましたが、2011年に東日本大震災が発生。被災者にまず必要なのは水と新鮮な野菜であることを痛感した。これ以降、自然農の研究を加速させ、自家採取の種、無農薬だけでなく、レメディーを使っていることが特徴」と強調。また「通常、自然農は、収量が低いというデメリットがよく言われていますが、レメディーを使うと、生命力が増し、収量が高くなります。また、品種改良された作物が、それ以前の姿に『先祖返り』することもある」と語り、こうした自然農の様子が収められた映像が放映された。

後半はワクチンなどが原因による発達障害児のケースが発表された。問題行動が目立つ幼児がホメオパシー相談会をきっかけに、みるみるコミュニケーション能力を取り戻す様子が、ＤＶＤ映像で紹介。次に子宮頸がんワクチンの副作用と思われる症状の改善例も発表された。ＪＰＨＭＡでは、子宮頸がんワクチン被害者に対して、無料での健康相談会を行っていることも述べ、品種改良された作物が、それ以前の姿に「先祖返り」したり、薬害に苦しんでいる人の症状が改善したり、文字通り、ホメオパシーは「自然に戻す」ことを語り「ホメオパシーによって自分自身の生命力や自己治癒力を高める。そのためにも自分を愛することが大切である」と語った。

続いてパネルディスカッションが行われた。

最後に由井会長の総評が行われ「毎年、コングレスを開くと、初心者に戻るような気持ちになります。次の年には違うテーマが出てくるからです。毎回、新しいことに挑戦していかねばならない。今年は子宮頸がんワクチンの問題がありました。300万人の子供が接種され、副作用が多く出ている事実を知り、私たちに出来ることはないかと真剣に考え、行動していきます。私たち一人一人が何をできるか考えましょう。農業をやりましょう。そして自分たちを愛しましょう。この国に住んでいるから、この国を恥に思わず、愛して欲しいと思います」と述べた。最後に会場全体でホメオパシーの歌を歌って終了した。